

株主メモ

| | |
|--------------|--|
| 事業年度 | 毎年4月1日から翌年3月31日まで |
| 定時株主総会 | 毎年6月 |
| 剰余金配当支払株主確定日 | 毎年3月31日 |
| 中間配当金支払株主確定日 | 毎年9月30日 |
| 基準日 | 毎年3月31日 (そのほか必要があるときはあらかじめ公告いたします。) |
| 公告掲載方法 | 日本経済新聞 |
| 株主名簿管理人 | 中央三井信託銀行株式会社 |
| 同事務取扱所 | 〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 TEL 0120-78-2031 (フリーダイヤル) |
| 同取次所 | 中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本支店 |
| 単元株式数 | 1,000株 |

世界の技術光源になる。

ICHIKOH

市光工業株式会社 〒141-8627東京都品川区東五反田5丁目10番18号 TEL.03-3443-7281 FAX.03-3443-7233 URL : <http://www.ichikoh.com/>



平成19年度

(平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)

報告書



ICHIKOH



代表取締役社長

市川 伸男

株主の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。ここに当社グループ平成19年度の事業の概況等をご報告申し上げます。

当事業年度におけるわが国経済は、当事業年度後半では米国の景気減速によって陰りが見え始めたものの、総じて拡大基調にあった世界経済の恩恵を受けた結果となりました。外需は、当事業年度前半は為替が円安に推移したことから、輸出が伸展し、引き続き好調に推移しました。他方、内需も、輸出関連企業の業績の好調により設備投資が堅調に推移したことや個人消費が伸びたことから、底堅く推移しました。

自動車業界では、原材料高、米国景気減速に加え、第3四半期に至り円の高騰もあり、厳しい経営環境に直面しました。わが国の自動車市場は成熟化し、保有期間の長期化や若者のクルマ離れにより自動車の保有台数が減少に転じ始めていることから、国内新車登録台数は減少しています。平成18年度比で乗用車、商用車を合わせた登録台数が16.1万台減少して342.6万台、軽自動車の届出台数も13.7万台減少して189.3万台となり、全体で29.8万台減少し531.9万台に止まりました。しかし、自動車輸出は、米国の不振の影響はあるものの新興国向けの販売が伸びた結果、63.9万台増加し676.9万台、海外生産も初めて国内生産を上回って1,200万台規模になるなど、国内の新車販売の減少を海外でカバーする形となりました。

このような環境のもと、当社グループは、中期経営計画、年度方針に基づき、「品質第一の企業への変革」を目標に掲げ、以下のような取り組みをしてまいりました。

第1に、品質向上の取り組みとしては、高品質かつ効率的な業務体制構築に取り組んでまいりました。具体的には、品質システムの再構築により、品質監査機能の強化、図面完成度評価の実施、試験設備の充実および人的資源の投入といった物的、人的投資を集中して行い、徹底した品質の管理、向上を図りました。

第2に、収益力向上およびグローバル事業展開としては、当社グループの中国拠点である市光法雷奥（佛山）汽車照明系統有限公司において生産体制を安定化するプロジェクトを推進し、積極的に技術支援を行いました。また、ASEAN地域の連結拠点については黒字体質定着化に取り組む、当事業年度も全体として黒字を達成いたしました。平成19年5月に、新工場にて生産を開始した当社の連結子会社である九州市光工業株式会社においても、工程不良低減を始めとする「ムダの排除」を推進してまいりました。ミ

ラー事業においては、ミラー製品の品質および生産性向上に向けて設備投資に着手いたしました。

第3に、将来に向けた研究開発としては、「360°×24hours」という当社の製品開発コンセプトに基づき、走行環境適応先進ヘッドランプシステム（Adaptive Frontlighting System（アダプティブ フロントライティング システム））や先進リアランプシステム（Adaptive Rearlighting System（アダプティブ リアライティング システム））に加え、複数のカメラを統合制御する全方位視認システムの開発に継続的に取り組んでおります。

第4に、環境対策としては、「3つのR」、Reduce（省資源）、Reuse（再利用）、Recycle（リサイクル）、という3ステップに基づいたリサイクル活動を推進しました。具体的には、ヘッドランプの検査による規格外品のリサイクルおよび埋立廃棄物ゼロ化運動に取り組んでまいりました。さらに、電球の鉛フリー化、アンバー電球のカドミウムフリー化やスクリュウの六価クロムフリー化等、環境負荷物質低減活動に取り組んでまいりました。

第5に、人材の強化としては、各部門の能力開発ニーズに対応した専門的知識・技術を習得する研修を実施してまいりました。また、コンプライアンスについて当社の全従業員とともに、連結子会社等当社グループ全体に対して研修を実施してまいりました。

売上高は121,143百万円（前期比0.5%増）となりました。これは、受注製品の販売が好調だったことに伴い、製品販売量が増加したこと等を反映した結果です。

営業利益は2,389百万円（同27.1%減）、経常利益は2,565百万円（同38.4%減）となりました。これは、原油の高騰による原材料費の増加や、会計基準の変更による減価償却費の増加、自動車市場の成熟化による価格競争の激化に対応するための設備投資、研究開発費の計上等を反映した結果です。

当期純利益は3,238百万円（前期は900百万円の損失）となりました。これは、上記のようなコストアップ要因や投資有価証券評価損、製品保証引当金等による費用の計上はあるものの、厚生年金基金の代行部分の返上益等を反映した結果です。

部門別の概況については、自動車部門の売上高は118,280百万円（前期比0.9%増）となり、非自動車部門の売上高は2,862百万円（同15.4%減）となりました。

今後の自動車業界を取り巻く環境は、BRICsを始めとする新興国が引き続き著しい経済成長をすると見込まれるこ

ともあり、世界全体では新車販売台数の増加が続くと考えられます。しかしながら、金融不安や資源高の影響もあり、世界経済の不確実性が増すものと予想されます。また、国内の自動車業界は、1ドル＝100円前後の急速な円高による為替差損による減益要因、米国の景気減速に伴う現地生産台数、輸出台数の減少、国内市場の成熟に伴う新車販売台数の減少が見込まれます。このような予断を許さない環境のもと、日本の自動車メーカーによる輸出、海外現地生産は当面増加するものの、先行き不透明な状況が見込まれます。

当社グループは、予想される厳しい経営環境の中でグローバル化に対応し、以下の通り、経営改革、事業改革および業務改革に取り組んでまいります。まず、スピードを増す経済の変化に適時的確に対応するため、経営判断の迅速化と業務の監視機能をより強化することにより、経営改革に取り組む所存です。

次に、事業改革については、グローバル化を図るべく、当社の海外事業の中核であるインドネシア、マレーシア、中国などの拠点に経営資源を集中し、新たにタイにも拠点の設立を検討してまいります。国内事業も生産拠点の効率化を図るほか、グループ会社一丸となって当社の事業をより確固たるものにすべく取り組む所存です。

さらに、業務改革については、業務品質の向上、品質監査機能の強化を図ることにより、「品質第一の企業への変革」に引き続き進んでまいります。開発、設計、生産に至る一連の業務において、生産準備段階における品質の安定性の確保、生産工程におけるロスの最小化および間接業務の「ムダの排除」を徹底し、品質および合理化目標を必達することにより、高収益体質の確立に努めてまいります。新たな法的規制に適合するため、内部統制システムを確立することを通して、財務報告の信頼性確保、リスク管理体制の構築運用を図ることにより、業務の効率化の推進に努めてまいります。

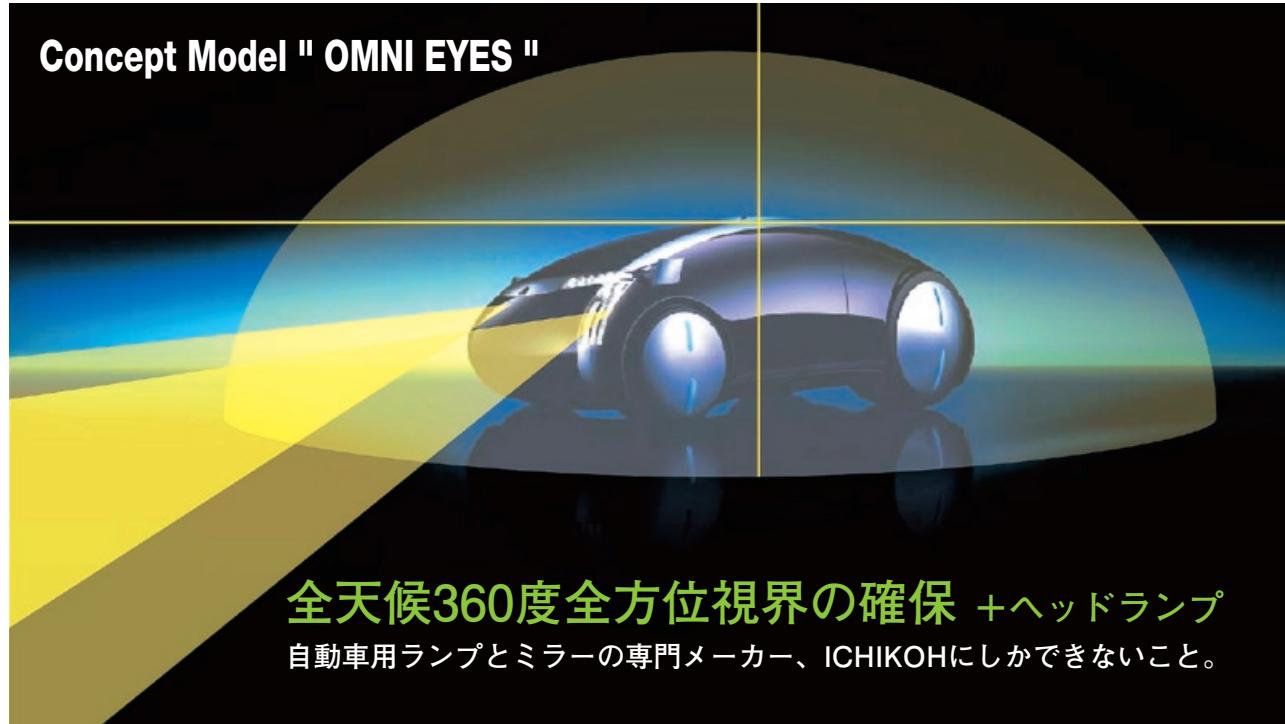
当社グループとして、このような経営課題に取り組むことにより、グループの業務に携わる全ての関係者の自己規律というコンプライアンス意識を一層向上させる努力をするとともに、より高品質の製品を世に送り出していくことにより、企業としての社会的責任を果たしてまいります。

株主の皆様におかれましては、一層のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

目次

| | |
|---------------|----|
| 株主の皆さまへ | 1 |
| 開発コンセプト | 3 |
| 財務ハイライト | 4 |
| 連結決算概要 | 5 |
| 個別決算概要 | 7 |
| Topics | 9 |
| ICHIKOH WORKS | 10 |
| 株式の状況 | 13 |
| 会社概要 | 14 |

Lighting & Vision

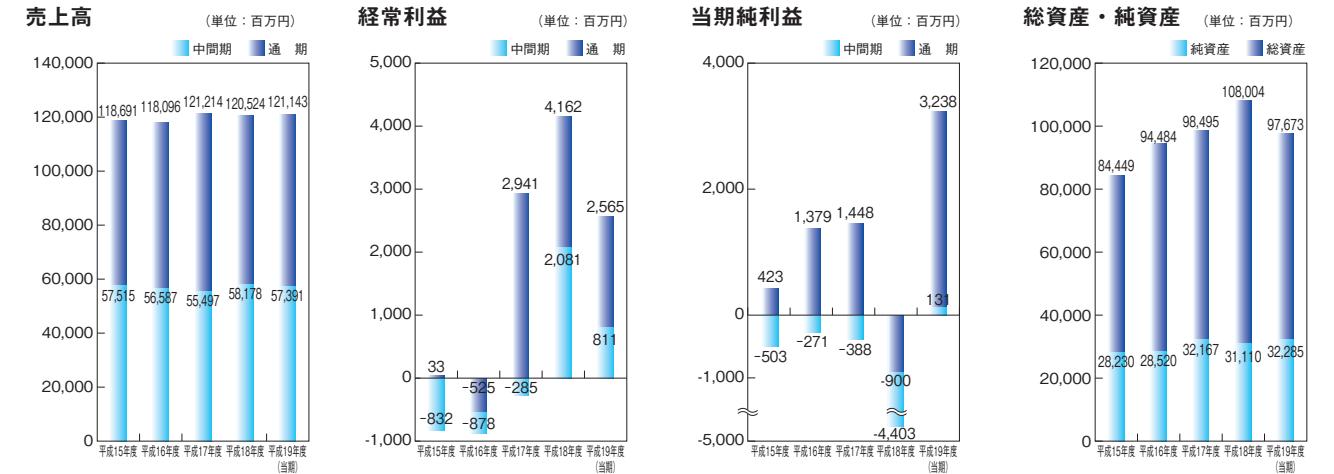


闇を切り裂くヘッドランプ、周囲の状況を確認するミラーシステム、悪天候下の視界を確保するワイパー、後続車に意思を伝えるリアコンビネーションランプなど・・・私達、市光工業（以下、市光）が提供する製品の全ては、360度全方位の安全を24時間いかなる状況でも確保する機能部品であり、ドライバーの感覚にダイレクトに応える安全デバイスです。

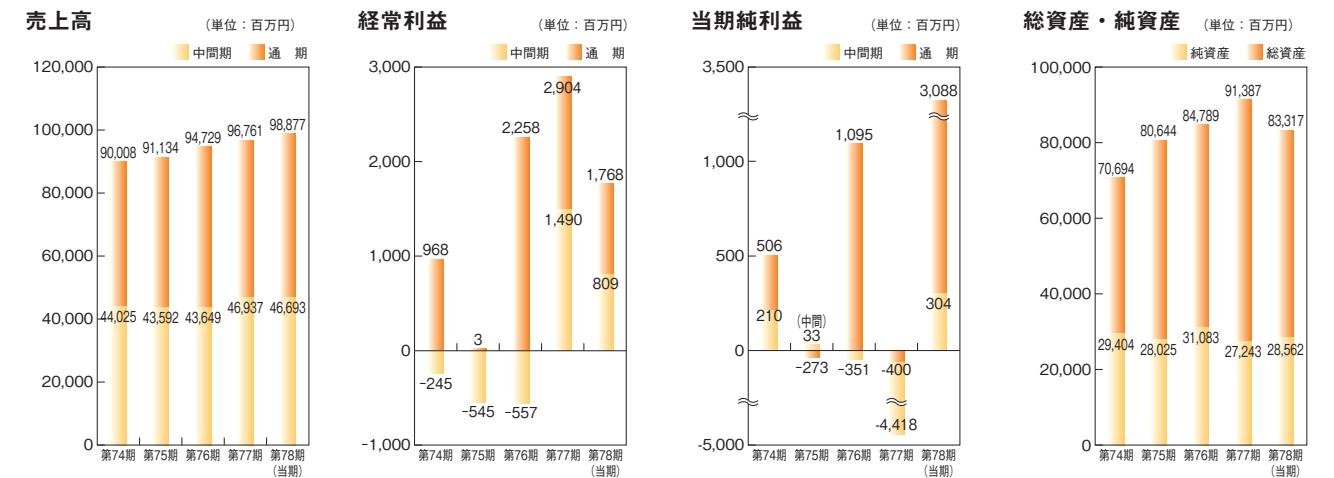
Lighting & Vision・・・360°×24hours、これが市光の目指す製品開発コンセプトであり、その思想をカタチにしたのが、未来の車、「オムニアイズ」です。オムニアイズは、走行環境適応先進ヘッドランプシステム（AFS）や、先進リアランプシステム（ARS）に加え、複数のカメラを統合制御し、全方位の視界に潜む危険を、ドライバーに知らせる全方位視認システムを搭載した、市光の将来技術コンセプトモデルであり、市光が進む未来の方向を示す象徴的な存在です。

私達は、今後も「自動車ランプとミラー」という独自のフィールドから新たな製品を提案し続けます。

連結財務ハイライト



個別財務ハイライト



連結決算概要

連結貸借対照表（要旨）

（単位：百万円）

| 科 目 | 当連結会計年度 | 前連結会計年度 | 科 目 | 当連結会計年度 | 前連結会計年度 |
|----------------------|---------------|----------------|------------------------|----------------|----------------|
| | 平成20年3月31日 | 平成19年3月31日 | | 平成20年3月31日 | 平成19年3月31日 |
| 資 産 の 部 | | | 負 債 の 部 | | |
| 流 動 資 産 | 51,303 | 57,388 | 流 動 負 債 | 39,746 | 47,461 |
| 現金及び預金 | 13,440 | 14,536 | 支払手形及び買掛金 | 21,651 | 22,065 |
| 受取手形及び売掛金 | 22,001 | 23,272 | 短期借入金 | 3,275 | 4,729 |
| 有価証券 | 89 | 93 | 1年以内償還予定の社債 | 80 | 80 |
| たな卸資産 | 8,182 | 8,629 | 1年以内返済予定の長期借入金 | 5,582 | 4,942 |
| 前払金 | 1,265 | 1,346 | 未払金 | 669 | 2,458 |
| 繰延税金資産 | 2,004 | 4,848 | 未払法人税等 | 308 | 220 |
| その他 | 4,356 | 4,705 | 未払費用 | 3,375 | 3,421 |
| 貸倒引当金 | △ 36 | △ 43 | 製品保証引当金 | 2,316 | 7,633 |
| 固 定 資 産 | 46,370 | 50,615 | その他 | 2,487 | 1,910 |
| 有 形 固 定 資 産 | 29,482 | 31,746 | 固 定 負 債 | 25,642 | 29,431 |
| 建物及び構築物 | 9,033 | 9,823 | 社 債 | 100 | 180 |
| 機械装置及び運搬具 | 8,348 | 9,565 | 長期借入金 | 16,894 | 14,670 |
| 工具器具及び備品 | 2,959 | 2,896 | 繰延税金負債 | 36 | 12 |
| 土地 | 6,181 | 6,089 | 退職給付引当金 | 7,999 | 12,459 |
| 建設仮勘定 | 2,960 | 3,370 | 役員退任慰労引当金 | 248 | 321 |
| 無 形 固 定 資 産 | 234 | 211 | 負のれん | 8 | 10 |
| 投 資 其 他 の 資 産 | 16,653 | 18,657 | 長期預り金 | 355 | 1,777 |
| 投資有価証券 | 6,477 | 9,195 | 負 債 合 計 | 65,388 | 76,893 |
| 長期貸付金 | 287 | 381 | 純 資 産 の 部 | | |
| 繰延税金資産 | 6,663 | 5,326 | 株 主 資 本 | 33,059 | 30,436 |
| その他 | 3,249 | 3,793 | 資 本 金 | 8,929 | 8,929 |
| 貸倒引当金 | △ 24 | △ 39 | 資 本 剰 余 金 | 7,840 | 7,840 |
| 資 産 合 計 | 97,673 | 108,004 | 利益剰余金 | 16,315 | 13,688 |
| | | | 自己株式 | △ 26 | △ 22 |
| | | | 評 価 ・ 換 算 差 額 等 | △ 2,994 | △ 1,488 |
| | | | その他有価証券評価差額金 | △ 1,415 | △ 200 |
| | | | 為替換算調整勘定 | △ 1,579 | △ 1,287 |
| | | | 少数株主持分 | 2,219 | 2,162 |
| | | | 純 資 産 合 計 | 32,285 | 31,110 |
| | | | 負 債 純 資 産 合 計 | 97,673 | 108,004 |

（注）記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

| 科 目 | 当連結会計年度 | 前連結会計年度 |
|-----------------------------|-------------------------|-------------------------|
| | 平成19年4月1日から平成20年3月31日まで | 平成18年4月1日から平成19年3月31日まで |
| 売上高 | 121,143 | 120,524 |
| 売上原価 | 103,638 | 102,333 |
| 販売費及び一般管理費 | 15,115 | 14,913 |
| 営業利益 | 2,389 | 3,277 |
| 営業外収益 | 1,910 | 1,730 |
| 営業外費用 | 1,734 | 845 |
| 経常利益 | 2,565 | 4,162 |
| 特別利益 | 5,361 | 4,673 |
| 特別損失 | 1,529 | 8,946 |
| 税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失(△) | 6,397 | △ 110 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 562 | 389 |
| 法人税等調整額 | 2,372 | 27 |
| 少数株主利益 | 223 | 372 |
| 当期純利益又は当期純損失(△) | 3,238 | △ 900 |

（注）記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：百万円）

| 科 目 | 当連結会計年度 | 前連結会計年度 |
|------------------|-------------------------|-------------------------|
| | 平成19年4月1日から平成20年3月31日まで | 平成18年4月1日から平成19年3月31日まで |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 2,788 | 8,717 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △ 4,754 | △ 4,160 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 967 | 2,441 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | △ 181 | 8 |
| 現金及び現金同等物の増減額 | △ 1,179 | 7,007 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 13,790 | 6,783 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 12,611 | 13,790 |

（注）記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結株主資本等変動計算書

当連結会計年度（平成19年4月1日から平成20年3月31日まで）

（単位：百万円）

| | 株 主 資 本 | | | | | 評 価 ・ 換 算 差 額 等 | | | 少 数 株 主 持 分 | 純 資 産 合 計 |
|---------------------------|---------|-----------|-----------|---------|-------------|-----------------|----------|------------|-------------|-----------|
| | 資本金 | 資 本 剰 余 金 | 利 益 剰 余 金 | 自 己 株 式 | 株 主 資 本 合 計 | その他有価証券評価差額金 | 為替換算調整勘定 | 評価・換算差額等合計 | | |
| 平成19年3月31日残高 | 8,929 | 7,840 | 13,688 | △22 | 30,436 | △200 | △1,287 | △1,488 | 2,162 | 31,110 |
| 連結会計年度中の変動額 | | | | | | | | | | |
| 剰余金の配当 | | | △575 | | △575 | | | | | △575 |
| 当期純利益 | | | 3,238 | | 3,238 | | | | | 3,238 |
| 自己株式の取得 | | | | △3 | △3 | | | | | △3 |
| 持分法の適用範囲の変動 | | | △36 | | △36 | | | | | △36 |
| 株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額（純額） | | | | | | △1,214 | △291 | △1,505 | 57 | △1,448 |
| 連結会計年度中の変動額合計 | - | - | 2,626 | △3 | 2,623 | △1,214 | △291 | △1,505 | 57 | 1,174 |
| 平成20年3月31日残高 | 8,929 | 7,840 | 16,315 | △26 | 33,059 | △1,415 | △1,579 | △2,994 | 2,219 | 32,285 |

（注）記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

個別決算概要

貸借対照表

(単位：百万円)

| 科 目 | 当事業年度 | | 前事業年度 | | 科 目 | 当事業年度 | | 前事業年度 | |
|-------------|---------------|---------------|----------------|---------------|---------------|------------|------------|------------|------------|
| | 平成20年3月31日 | 平成19年3月31日 | 平成20年3月31日 | 平成19年3月31日 | | 平成20年3月31日 | 平成19年3月31日 | 平成20年3月31日 | 平成19年3月31日 |
| 資産の部 | | | | | 負債の部 | | | | |
| 流動資産 | 41,961 | 47,067 | 流動負債 | 34,318 | 40,095 | | | | |
| 現金及び預金 | 9,623 | 9,066 | 支払手形 | 5,178 | 5,242 | | | | |
| 受取掛手形 | 565 | 1,020 | 買掛金 | 15,517 | 15,746 | | | | |
| 有価証券 | 17,318 | 19,028 | 短期借入金 | 1,900 | 1,900 | | | | |
| 製品 | 14 | 18 | 1年以内返済予定の長期借入金 | 4,110 | 3,664 | | | | |
| 原材料 | 1,618 | 1,851 | 未払金 | 247 | 1,682 | | | | |
| 仕掛品 | 1,634 | 1,742 | 未払法人税等 | 49 | 44 | | | | |
| 貯蔵品 | 755 | 796 | 未払消費税等 | 227 | 81 | | | | |
| 前払金 | 139 | 101 | 未払費用 | 2,604 | 2,523 | | | | |
| 前払費用 | 1,213 | 1,325 | 製品保証引当金 | 2,316 | 7,633 | | | | |
| 繰延税金資産 | 59 | 56 | その他の | 2,167 | 1,576 | | | | |
| 関係会社短期貸付金 | 1,901 | 4,704 | 固定負債 | 20,436 | 24,048 | | | | |
| 未収入金 | 3,222 | 3,219 | 長期借入金 | 12,260 | 10,170 | | | | |
| その他 | 4,405 | 4,655 | 退職給付引当金 | 7,589 | 11,801 | | | | |
| 貸倒引当金 | △ 536 | △ 645 | 役員退任慰労引当金 | 231 | 298 | | | | |
| 固定資産 | 41,355 | 44,319 | 長期預り金 | 355 | 1,777 | | | | |
| 有形固定資産 | 22,209 | 23,680 | 負債合計 | 54,754 | 64,143 | | | | |
| 建物 | 6,632 | 7,102 | 純資産の部 | | | | | | |
| 構築物 | 296 | 327 | 株主資本 | 30,021 | 27,512 | | | | |
| 機械及び装置 | 6,197 | 6,930 | 資本金 | 8,929 | 8,929 | | | | |
| 車両及び運搬具 | 12 | 15 | 資本剰余金 | 7,393 | 7,393 | | | | |
| 工具器具及び備品 | 2,113 | 2,016 | 資本準備金 | 7,393 | 7,393 | | | | |
| 土地 | 4,424 | 4,287 | 利益剰余金 | 13,724 | 11,211 | | | | |
| 建設仮勘定 | 2,533 | 3,001 | 利益準備金 | 1,543 | 1,543 | | | | |
| 無形固定資産 | 167 | 154 | 配当引当積立金 | 600 | 600 | | | | |
| ソフトウェア | 65 | 55 | 固定資産圧縮積立金 | 345 | 349 | | | | |
| その他 | 101 | 98 | 別途積立金 | 8,409 | 8,409 | | | | |
| 投資その他の資産 | 18,978 | 20,484 | 繰越利益剰余金 | 2,826 | 309 | | | | |
| 投資有価証券 | 5,648 | 8,261 | 自己株式 | △ 26 | △ 22 | | | | |
| 関係会社株式 | 3,128 | 3,193 | 評価・換算差額等 | △ 1,458 | △ 268 | | | | |
| 出資 | 4 | 4 | その他有価証券評価差額金 | △ 1,458 | △ 268 | | | | |
| 関係会社出資金 | 1,698 | 1,698 | 純資産合計 | 28,562 | 27,243 | | | | |
| 関係会社長期貸付金 | 1,054 | 1,121 | 負債純資産合計 | 83,317 | 91,387 | | | | |
| 長期前払費用 | 82 | 140 | | | | | | | |
| 繰延税金資産 | 6,307 | 4,964 | | | | | | | |
| その他の | 1,058 | 1,105 | | | | | | | |
| 貸倒引当金 | △ 5 | △ 5 | | | | | | | |
| 資産合計 | 83,317 | 91,387 | | | | | | | |

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

損益計算書

(単位：百万円)

| 科 目 | 当事業年度 | | 前事業年度 | |
|-----------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|
| | 平成19年4月1日から平成20年3月31日まで | 平成19年4月1日から平成19年3月31日まで | 平成18年4月1日から平成19年3月31日まで | 平成18年4月1日から平成19年3月31日まで |
| 売上 | 98,877 | 96,761 | 売上 | 85,807 |
| 販売費及び一般管理費 | 88,325 | 85,807 | 販売費及び一般管理費 | 9,233 |
| 営業利益 | 9,771 | 9,233 | 営業利益 | 1,719 |
| 営業外収益 | 780 | 1,702 | 営業外収益 | 1,702 |
| 受取利息及び配当金 | 1,832 | 315 | 受取利息及び配当金 | 450 |
| 固定資産貸貸料 | 250 | 315 | 固定資産貸貸料 | 936 |
| その他の営業外収益 | 514 | 450 | その他の営業外収益 | 518 |
| 営業外費用 | 1,068 | 936 | 営業外費用 | 178 |
| 支払外利息 | 845 | 518 | 支払外利息 | 159 |
| 支店賃借料 | 234 | 178 | 支店賃借料 | 179 |
| 固定資産貸与費用 | 266 | 159 | 固定資産貸与費用 | 1,768 |
| その他の営業外費用 | 344 | 179 | その他の営業外費用 | 5,074 |
| 経常利益 | 1,768 | 2,904 | 経常利益 | 5,190 |
| 特別利益 | 5,074 | 2,904 | 特別利益 | 2,904 |
| 投資有価証券売却益 | 1 | 3,849 | 投資有価証券売却益 | — |
| 厚生年金代行返上益 | 4,844 | — | 厚生年金代行返上益 | 1,341 |
| その他の特別利益 | 229 | 1,341 | その他の特別利益 | 8,732 |
| 特別損失 | 1,440 | 8,732 | 特別損失 | 207 |
| 固定資産処分損 | 242 | 207 | 固定資産処分損 | — |
| 投資有価証券評価損 | 712 | — | 投資有価証券評価損 | 8,521 |
| 製品保証引当金繰入額 | 403 | 8,521 | 製品保証引当金繰入額 | 4 |
| その他の特別損失 | 81 | 4 | その他の特別損失 | △ 637 |
| 税引前当期純利益又は税引前当期純損失(△) | 5,402 | △ 637 | 税引前当期純利益又は税引前当期純損失(△) | 37 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 37 | 48 | 法人税、住民税及び事業税 | 286 |
| 法人税等調整額 | 2,276 | △ 286 | 法人税等調整額 | 400 |
| 当期純利益又は当期純損失(△) | 3,088 | △ 400 | 当期純利益又は当期純損失(△) | |

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

株主資本等変動計算書

(単位：百万円)

当事業年度（平成19年4月1日から平成20年3月31日まで）

| | 株 主 資 本 | | | | | | | | | 自己株式 | 株主資本合計 | その他有価証券評価差額金 | 評価・換算差額等 | 純資産合計 |
|-------------------------|---------|-------|---------|-------|---------|-----------|-------|---------|---------|------|--------|--------------|----------|--------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | | | 利益剰余金 | | | | | | | | | |
| | | 資本準備金 | 資本剰余金合計 | 利益準備金 | 配当引当積立金 | 固定資産圧縮積立金 | 別途積立金 | 繰越利益剰余金 | 利益剰余金合計 | | | | | |
| 平成19年3月31日残高 | 8,929 | 7,393 | 7,393 | 1,543 | 600 | 349 | 8,409 | 309 | 11,211 | △22 | 27,512 | △268 | △268 | 27,243 |
| 事業年度中の変動額 | | | | | | | | | | | | | | |
| 固定資産圧縮積立金取崩額 | | | | | | △4 | | 4 | — | | — | | | — |
| 剰余金の配当 | | | | | | | | △575 | △575 | | △575 | | | △575 |
| 当期純利益 | | | | | | | | 3,088 | 3,088 | | 3,088 | | | 3,088 |
| 自己株式の取得 | | | | | | | | | | △3 | △3 | | | △3 |
| 株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額) | | | | | | | | | | | | △1,190 | △1,190 | △1,190 |
| 事業年度中の変動額合計 | — | — | — | — | — | △4 | — | 2,516 | 2,512 | △3 | 2,508 | △1,190 | △1,190 | 1,318 |
| 平成20年3月31日残高 | 8,929 | 7,393 | 7,393 | 1,543 | 600 | 345 | 8,409 | 2,826 | 13,724 | △26 | 30,021 | △1,458 | △1,458 | 28,562 |

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。



多彩なモデルに、多彩なフォルムの安全性能を提供しています。

それぞれのクルマのデザインに合わせ、常にベストの安全を提供し続けるICHIKOH。高度な配光設計シミュレーションや、製品の見映えを忠実に再現する3Dシミュレーション等、その先進の開発技術と確かな品質は、国内・国外の自動車メーカーからの高い評価と信頼に表れています。ヘッドランプ、リアコンビネーションランプ、ドアミラー…。あなたのクルマにもきっとICHIKOHの製品が使われています。

ヘッドランプの開発（トヨタ ブレイド）

トヨタブレイドは、「洒落た大人の高級ハッチバック」を開発テーマに国内専用車として開発され、ヘッドランプも上級グレードを思わせるようなものが要求された製品です。開発においては、高級デザインを保持したままヘッドランプとして成立させることはもちろんのこと、得意先要求を満足し、会社としては生産性が良く、つくりやすい製品に仕上げることに注力しました。

現場からの声をきっかけに組付けやすいゴムカバーが生まれました。

この製品の自慢できる点は、車に組付くと見えない部分ですがバルブシール用のゴムカバーを新たに開発したことです。ブレイドのヘッドランプは、光軸を調整するレベリングアクチュエーターが作動する際にゴムカバーが抵抗となってしまうアクチュエーターの作動が不安定になるという不具合が発生します。その不具合対策と、組付け性の向上も狙ったゴムカバーの開発を行いました。その結果、アクチュエーターの作動に影響を与えることなく、製品への組付け時間は従来品に対して約30%短縮することができました。今後も機能、組付け性を考慮した製品開発を行っていきたいと思います。



開発者 中部設計部 海江田



トヨタ ブレイド
ヘッドランプ



バルブシール用の
ゴムカバー

リアコンビランプの開発（日産 GT-R）

GT-Rのリアコンビネーションランプ（以下リアコン）の開発は、バンパーに埋め込まれた特有の構造をしているため、車体への取り付けや法律上の規制等、さまざまな問題をクリアする必要がありました。特に走行時に車体の振動でリアコンとバンパーの接触部分からきしみ音が発生する可能性があり、その対策として、外観や、接合部分がスムーズな面で繋がる事を優先し、接触面に特殊なコーティングを施すことで音の発生を防ぎました。また、軽量化に関しても生産性やコストとのバランスをとりながら、生産技術部を中心に樹脂厚設定などを行っています。

丸型4つ目はGT-Rの重要なアイコン。ターンランプとバックランプの意匠にも一工夫。

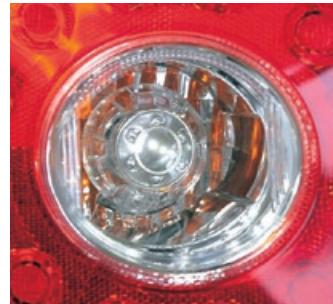
GT-Rは特別なクルマです。特に、丸型4つ目のリアコンは、正にGT-Rのアイコンと言えます。そのため、当然ながらデザイン面での細かいディテールも重要視、ターンランプとバックアップランプのバルブを直接見せたくないという希望もあり、バルブをシェイドで囲うデザインを採用すると共に、通常は金属で作られるシェイドを、軽量化の為に樹脂成形としました。また、配光面では、リアコン自体がバンパーに埋没したデザインであるため、プリズム加工されたインナーレンズで光を拡散させることによって配光を確保しています。



開発者 第二設計部 水嶋



日産 GT-R
リアコンビランプ



プリズム加工された
インナーレンズ

ドアミラーの開発（日産 エルグランド）

エルグランドのドアミラーは、ターンランプと、カメラ、夜間照明用の赤外LEDが内蔵された、ドアミラーの中でも最高級の製品になります。従来の製品は、ターンランプ、カメラ、赤外LEDが一体のものとして設計されていましたが、新型エルグランドのドアミラーのアラウンドビューカメラタイプではカメラの汎用性を考慮し、ターンランプ（照明用の赤外LED含む）と、カメラは別体としてデザインされています。

世界初のアラウンドビューモニターをどう仕上げるか？

世界初のアラウンドビューカメラ対応となったことで、従来、カメラは助手席側だけでよかったのですが、運転席側のドアミラーにもカメラが内蔵されることもあり、カメラの汎用性を考慮した製品開発が必要となりました。そのため、ターンランプ（照明用の赤外LED含む）と、カメラは別体としてデザインしています。実際の開発では、いかに現行のサイドビューカメラタイプの設計から、極力設計変更をせず、コストを押さえつつ、新たにアラウンドビューカメラタイプを成立させるかに注力しました。生産技術を初めとする協力体制のもと、アラウンドビューモニター対応のドアミラーを世に送り出すことができました。



開発者 ミラー技術部 高田



日産 エルグランド
ドアミラー



アラウンドビューモニター対応
のカメラ

株式の状況 (平成20年3月31日現在)

株式の総数及び資本金

資 本 金 8,929,538,428円

発行済株式の総数 96,036,851株

発行可能株式総数 200,000,000株

株式の異動

名義書換件数 258件

名義書換株式数 2,479,727株

期末株主数 8,794名

大株主 (上位10社)

| 株 主 名 | 持 株 数 | 議決権個数 | 議決権比率 |
|------------------|-----------|----------|---------|
| ヴァレオ・バイエン | 30,339 千株 | 30,339 個 | 31.62 % |
| トヨタ自動車株式会社 | 5,869 | 5,869 | 6.11 |
| 株式会社みずほコーポレート銀行 | 4,775 | 4,775 | 4.97 |
| 株式会社三菱東京UFJ銀行 | 3,688 | 3,688 | 3.84 |
| 日本生命保険相互会社 | 3,076 | 3,076 | 3.20 |
| ダイハツ工業株式会社 | 2,712 | 2,712 | 2.82 |
| 三菱UFJ信託銀行株式会社 | 2,344 | 2,344 | 2.44 |
| みずほ信託銀行株式会社 | 1,913 | 1,913 | 1.99 |
| 株式会社三井住友銀行 | 1,231 | 1,231 | 1.28 |
| ハリソン東芝ライティング株式会社 | 1,030 | 1,030 | 1.07 |

(注) 1. 持株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。
2. 議決権比率は自己株式 (99,885株) を控除して計算しています。

会社概要 (平成20年3月31日現在)

商 号 市光工業株式会社

設 立 昭和14年12月20日

事業所

| | |
|-----------|--|
| 本 社 | 〒141-8627 東京都品川区東五反田5-10-18 TEL 03 (3443) 7281 |
| テクニカルセンター | 〒259-1192 神奈川県伊勢原市板戸80 TEL 0463 (96) 1488 |
| 伊勢原製造所 | 〒259-1192 神奈川県伊勢原市板戸80 TEL 0463 (96) 1451 |
| 大泉製造所 | 〒370-0523 群馬県邑楽郡大泉町吉田1216-1 TEL 0276 (63) 2271 |
| 藤岡製造所 | 〒375-8508 群馬県藤岡市東平井1467 TEL 0274 (23) 2211 |
| 中津川製造所 | 〒509-9132 岐阜県中津川市茄子川1646-37 TEL 0573 (68) 6615 |
| ミラー製造所 | 〒375-8507 群馬県藤岡市藤岡1360 TEL 0274 (23) 2121 |
| 中部支店 | 〒465-0025 愛知県名古屋市中東区上社4-130 TEL 052 (709) 2011 |
| AM札幌センター | 〒005-0036 北海道札幌市南区南36条西11-2-13 TEL 011 (581) 2166 |
| 大泉営業所 | 〒370-0523 群馬県邑楽郡大泉町吉田1216-1 TEL 0276 (63) 0760 |
| 大阪営業所 | 〒564-0052 大阪府吹田市広芝町15-39 TEL 06 (6384) 6551 |
| 九州営業所 | 〒802-0003 福岡県北九州市小倉北区米町1-3-1 TEL 093 (522) 5711 |

取締役及び監査役

| | |
|---------|--------------|
| 代表取締役社長 | 市川 侑 男 |
| 取締役副社長 | 青木 俊 朗 |
| 取締役副社長 | 津崎 栄 二 |
| 専務取締役 | 安藤 信 雄 |
| 常務取締役 | 大坪 千 二 |
| 常務取締役 | 小宮山 文 夫 |
| 常務取締役 | 後藤 博 美 |
| 取締役 | 米山 洋 一 |
| 取締役 | 中村 智 |
| 取締役 | ジャン=ポール・ラヴィエ |
| 取締役 | 米田 摂 津 太 郎 |
| 取締役 | 谷野 幹 男 |
| 取締役 | 飯野 晴 康 |
| 取締役 | 加藤 章 夫 |
| 取締役 | 碓 幸 雄 |
| 取締役 | 田 中 薫 |
| 取締役 | 笠井 義 孝 |
| 社外取締役 | ティエリー・ドゥリユー |
| 社外取締役 | クロード・レシュレ |
| 常勤監査役 | 山 本 文 雄 |
| 常勤監査役 | 住 野 稠 生 |
| 社外監査役 | 堤 淳 一 |
| 社外監査役 | 蛭 子 優 |

ホームページのご案内

会社案内、新製品情報、採用情報、株主・投資家情報などの企業情報を掲載しております。

<http://www.ichikoh.com/>



使用人数

連 結 3,480 (1,648) 名
単 体 2,229 (1,085) 名

(注) パート及び派遣社員等、契約期間に定めのある使用人は()内に外数で記載してあります。